

2025年2月期 第1四半期決算説明会

【質疑応答要旨】

日時 : 2024年7月5日(金) 10:00-10:30
説明者 : 取締役 財務・経理・IR担当 吉田 昌平

Q1. 商品在庫水準の適正化による売上総利益率の低下に関して、決算説明資料の15ページに紹介されている好調なブランド以外のブランドで適正化を優先したのか。また、春商戦の在庫水準の適正化に関しては、ある程度第1四半期で目途がつき、第2四半期の売上総利益率は第1四半期ほど悪化しない、もしくは改善するという見通しなのか。

A1. 商品在庫の水準適正化においては、売上が好調なブランドを含め全体的に進めました。好調な主要ブランドでも、部分的に定番品を含めた在庫の適正化を実施しました。第2四半期におきましても、ある程度の在庫水準の適正化は継続すると考えていますが、第2四半期の売上総利益率は前年同期以下に低下することなく、同水準か多少改善していく計画です。

Q2. ヨーロッパ事業が苦戦したとあるが、第1四半期でその影響がどの程度あったのか。また、第2四半期以降も苦戦が見込まれるとすれば、その要因を織り込んでも通期でヨーロッパ事業の黒字化を達成できるのか。

A2. ヨーロッパ事業については、ECの外部卸売先が事業を停止・縮小したことにより、数億円程度の影響がありました。2Q以降も卸売事業への影響は残りますが、自社ECや小売事業に一層注力し、売上の拡大を図り、リカバリーしていく考えです。

Q3. 第1四半期の在庫水準の適正化の取り組みや利益の進捗は、会社の想定と比べてどうだったのか。

A3. 第1四半期の営業利益については、上期予想の55億円の達成に向けて概ね期初予想通りに進捗したと言えます。在庫の適正化による売上総利益率への影響は、期初予想を若干上回りましたが、一方で、「オンワード・クローゼットセレクト」の店舗における人頭効率や店舗効率が想定以上に高まったことにより、販管費率が期初の設計以上に改善しました。この結果、第1四半期の営業利益は概ね期初予想通り進捗しました。

以上